

「議会と商工関係者との意見交換会 開催結果報告書」

1 開催日時

平成 23 年 12 月 20 日（火） 午後 6 時～午後 7 時 30 分

2 場 所

三笠市民会館 101 号室

3 参加者

(1) 議 員 10 名

(2) 商工関係者 22 名

4 意見交換 ⇒ テーマ 「今後のまちづくりの活性化策について」

(1) 総合常任委員会行政視察報告

10 月に実施した総合常任委員会行政視察について、武田委員長から配布資料により内容を説明。

ア. 視察テーマ

「地域文化として代々受け継がれている踊りを後世へ伝承する施設」

イ. 視察先

(ア) 徳島県徳島市 「阿波おどり会館」

(イ) 島根県安来市 「安来節演芸館」

(2) テーマに基づく意見交換

(「今後のまちづくりの活性化策」に係る主な事項)

ア. 今回、視察をしたのは結構だが、踊りを後世へ伝授していくというような、視察地では地域の中での教育を含めて幼い頃から取組み、後世へ残していく形を取っているのか。視察をして、何が三笠に当てはまるものがあったのか。

また、イベントに対しては、三笠市民の場合、市民一体となるのが下手で批判しにくい傾向があり、イベントを開催しても盛り上がりには欠けるところがある。

地域の人を立役者として、もう少し町内会を巻き込んで底上げをしていただきたい。

今回の視察は、議員 10 名が一体となって、三笠のまちづくりの中でいかに活性化するかと考え「歴史・文化」について取上げ、北海盆唄、盆おどりなど三笠の顔となるものがないか、まちづくりに繋げるヒントがないかという大きなテーマを持ち、行政にも協力を求めていきたいというのが 10 名の思いであり、今回の視察を実施したところである。視察地それぞれ特色ある取組みがあった。

また、イベントの活性化については、町内会を巻き込んで、協働のまちづくりを通じてさらに連携を強めていただくよう、議会から行政へ強く働きかける。

イ. 三笠市内の中心商店街がどうあるべきか。市中心部の核となる場所が寂しい限りの状況である。

中心部に核となる集客、目的を持った新しいまちづくりとして、今後どのように再開発していくか知恵を出していただきたい。

平成 22 年度の市内観光客数は約 68 万人で、富良野への通過という方が多いということが予測される中で、市中心部に「歴史・文化」の建物や、来春からスタートする市立三笠高校での高校生レストランのようなものといった核となるものを造るなど、何かできないかということで十分検討する材料になると考えている。

このことは、平成 24 年度からスタートする第 8 次総合計画の中に入れていくことも考えられ、議会としても中心部をどうにかしないといけないという共通認識はあるので、熟知しながら具現化できるよう 3 月定例会に向けての対応となる。

ウ. 住宅が三笠全体に広がりすぎており、中心部に人を集め、もっとコンパクトなまちづくりを進めていくべきではないか。

観光事業も美唄富良野線が開通すると、今後は美唄インターチェンジを利用されるようになり、素通りどころか観光バスが1台も通らなくなる。

多賀町や旧商工会の建物は早急に取り壊して、例えば三笠の交通機関の中心にするなど、中心部については一帯を道の駅のような屋外の買物センターのようにして、客数を中心部に集めることも1つのアイデアであると思う。一市民の声として検討いただけたらありがたい。

いかにまちをコンパクトに作り上げていくかということは、早くから議会の中でも議論されていることである。ただ、努力はしているが、持ち家の人もおり、一遍に集約は難しいが、基本的な考え方は中心部に人を集めて、将来、行政コストがかからないような形を取るということは話している。

ただ、総論は賛成でも、住めば都で、市民の安全、安心を守るためにも行政としても一定の地区内集約を呼びかけているというのが現状であることをご承知おき願いたい。

エ. 祭りやイベントでは活性化は無理だと思う。活性化は、人口減を止めて増やすことであり、人口が減って業績が増やせる訳がない。そのためには新産業、新事業を立ち上げないといけない。そのための補助制度をどんどん創設することが長い目で見る活性化であると思うが。

全くそのとおりであり、イベントでは一時的な効果はあっても、長い目で見ると働く場所が必要である。

第8次総合計画の中での課題となると思われるが、生産人口が少ないということで夢が見えない。若い人が働く場所があって、住んでいただいて、税を払っていただくということが必要であり、若い人が定着できるまちづくりとして産業を起こしていかなければならないと議会も意識を持っている。

オ. 今年度から小・中学校の統合がスタートしたが、統合に当たって 40 人に満たないことが予想される学年があり、市の予算措置で 2 学級を確保していただいたという経過がある。この市の予算措置もいつまで続くかわからないという不安がある。今の時代、1 学級 40 人というのは多すぎる。児童数の確保から見れば、岡山小も合併し 1 学年 40 人以上、2 学級を確保してほしい。

同じ三笠に住んでいて、バランスが悪いということはいけないと思う。

統合時の基本的な考え方は、1 学年 2 クラスで競争力を育てることが最優先であるということであった。

今後、三笠の将来を背負っていく子供達だと思うので、そこにお金をケチることがいいのかどうか、所管事項調査で調査させていただきたい。

以 上

※ その他参考意見等

(テーマである「今後のまちづくりの活性化策」とは直接的に関係しない事項のため、HP 非掲載扱いとするもの。)

- ・ 業者が単独でチラシを出しても効果が薄いのが、市広報は結構市民が目を通していているため、例えば、市広報の最後の1ページを宣伝として発行することはできないか。

かつて、商工会が独自に店舗紹介などとしてチラシを発行していたことがある。広報としては、行財政改革の取り組みの中で紙面をコンパクトにしてきた経過があることと、利害関係が伴うという面がある。

提案として所管事項調査等で努力したい。

※ なお、平成23年7月1日から、中小商工企業者への補助制度として「商工業活性化事業やる気応援補助金制度」が創設されたところである。

- ・ 広告宣伝費支援助成：市内で業を営む者が行う広告宣伝費に対する助成
(2分の1以内、限度額 30万円)

- ・ 現在、約40億円規模、150名の雇用を生む事業を提案している。ただ、1日に1,000トンを使用するため、水道水であれば年間8,000万円にもなり、対応できる金額ではない。現在の水道単価の1/3(1トン当たり272円)以下での供給は可能か。

行政にその報告をさせていただき、工業用水の料金等について、議会としても調べさせていただきたい。

はっきり言えることは、桂沢から日本一安い水を買っているということは確かであり、その結果、安い料金での提供が可能なのかどうか、議会として調査しないことには返答できない。

- ・ 踊りについても、小学校の運動会のように学校の教育の一環として行い、子供達を競争させるような方法で実施すれば、父母、祖父母などみんなが集まってきて良いと考える。

- イベントについては、継続することが歴史になっていくものと思う。
参考までに、今回視察した会館の類似したものとして、郡上八幡（岐阜県）にある会館というのが小規模であるもののかなりの観光客も来る施設で、小規模のところを見た方が良いと思う。
もし、このような会館を建設すると考えるのであれば、腹を据えて、もっと若い人の意見を聞いて考えるべき。
- 現在は、北海盆唄は全国大会を開催しているが、盆おどりは段・級などがいないため文化として捉えられていないと思う。来年からコミュニティスクールが始まるが、その中に盆おどりも取り込んで発表会を行うなど、学校と一緒に進めることなどが必要では。
- 将来的には、岡山小、萱野中も統合する方針と聞いたが、この地区の進学率が高いのは少人数制だからこそであって、小中一貫教育によるものではないと思う。少人数により子どもが伸び伸びとしているように思う。